

# 食べる・たいせつフェスティバル in 苫小牧

2020年（平成32年）4月24日に白老町に開設予定の「民族共生象徴空間」と世界文化遺産推薦候補となっている「北海道・北東北の縄文遺跡群」のPRのため、 Coop さっぽろ主催の「食べる・たいせつフェスティバル」に参加しました。

平成30年10月13日 場所は苫小牧駒澤大学です。

前回登別市のイベント出展より広く場所をお借りしました。



朝の状態 最終確認です

昼の状態 繁盛してます

ムックリ演奏体験のコーナーです。  
ムックリとは、口琴の一種でアイヌの人たちの楽器です。

最初は遠巻きに見ていた子どもたちが、迫力ある音色に惹かれてやってきました。  
今回はマイクありなのであたりに響きわたります。



一家でムックリに挑戦中



どうしてこんなに不思議な音が鳴るのかと、食い入るように見つめています。  
自分にも鳴らせるでしょうか。

今回は衣装試着のほかに、小物の展示もあります。

全部、手作りです。

大きなものだと、熟練した人でも半年がかりだそうです。



小児用のものです。マイクと大きさを比べてください。

縄文アクセサリーづくりのコーナーです。石は、あらかじめ小さく切っています。

材料の石は滑石（かっせき、タルク）というモース硬度1のとてもやわらかい石で、白、桃、緑などの中から好きな色を選んで磨いていきます。



こんな石をこんな風に削ったり

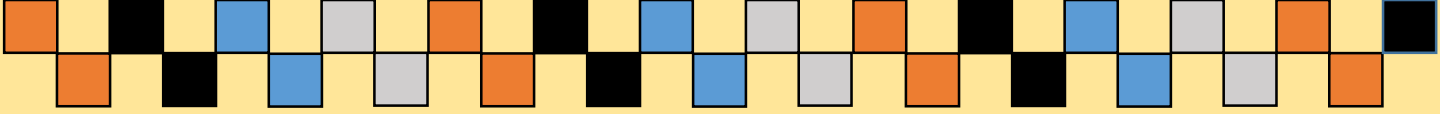


こんな石がこんな風になったりします



右の石は、A町の学芸員さんが道南の河川敷で拾い集めた石から削りだしたものです。模様に味があります。





アイヌ文様の刺繍体験コーナーです。チャコで文様を描いた小布でコースターを作っています。

みなさん、一所懸命に取り組んでいます。30分で縫い終わるのは難しいので、家に持ち帰り仕上げという方が殆どです。



時間を忘れて没頭しています



ここでも、アンケートをとっています。「あなたは白老町にできる民族共生象徴空間を知っていますか？」

御存知の方が40%もいらっしゃいました。さすが、地元ですね。

もっともっと、知っていただくようがんばります。



全7回の体験終了です。おかげさまで、今回も全回満員でした。皆様、御参加ありがとうございました。

登別地区に続いてのイベント参加でしたが、ここでも反応は最高でした。

今後とも、いろいろな形でアイヌ・縄文の宣伝をしていきたいと思えます。

主催者のコープさっぽろの皆様、お手伝いいただいた白老アイヌ協会の皆様、お世話になりました。本当にありがとうございました。



ご参加いただき、ありがとうございました。



今後も胆振地域の縄文・アイヌ文化を、多くの人に知っていただくため、体験会やパネル展等を行いますので、是非ご参加ください。

